

Nomu's 戦記「真の技術者になりたい！」

I. はじめに

1. 自己紹介

HN：Nomu（男）

部門：建設部門

科目：道路

昭和44年生まれの44歳。生まれも育ちも北海道です。18歳で測量会社に入り、設計業務に憧れて20歳で専門学校へ。22歳で念願の建設コンサルタントへ入るも色々なことに嫌気がさし…中略(^_^)

現在は施工会社の設計部署にて勤務しています。

「仕事が忙しい！」とか「この歳になって勉強って…」などを理由に資格試験に興味を抱かず過ごしていましたが、あるとき「その歳になって資格の一つもないの？」と無資格者の烙印を押されます。それがきっかけとなり、忘れかけていた情熱が再燃しました。それ以来、資格試験というものに片っ端から挑みます。しかし、技術士試験は本当に難しかった…(-_-;)

2. 合格までの経緯

技術士への挑戦は、一次試験を入れて実に10年越しでした。二次試験なら5回受験しています。

技術士一次試験とRCCM試験を同時に合格した翌年、勢いに乗じた私の1回目は、まあ気合いが入り、まあまあ勉強し、まあまあまあ手応えを（勝手に）感じていましたが、箸にも棒にもかからずの不合格でした。

周りに指導者が居ない私は不合格の理由も判らず、それですっかり不貞腐れてしまい、以降の2~3回目はハッキリ言って「ただ受けるだけ」といった感じでダラダラとやり過ごしていました。

本気となって毎日勉強し始めたのはH24からです。「真の技術者になりたい！」との目標を立て、その手段として「どうしても技術士になりたい！」と強く思ったからです。

II. H24 受験記（猛勉強するも筆記試験で不合格 の巻）

1. 合格を誓う

現状を打破して道を切り開くには技術士になるしかない…

年頭に合格を誓った。家族や知人にも宣誓した。

APECさんより指導を賜る（APEC-semiを受講する）ことも決めた。とにかく全力で挑むことを誓った。

2. 出願

APECさんより徹底的な指導を受けて出願書類を作成。当然、口頭試験に行くことをイメージして。

3. 筆記試験

(1) 孤独との戦い

やはり、「周りに指導者がいない」ということは辛い。近くに指導者が居れば、些細なことでもすぐに聞けるが、俺にはかなわない。

「すぐに考え、すぐに行動に移す」ことで、「やる気」を管理し、自分を奮い立たせていた。とにかく毎日勉強する。

しかし、孤独だった。いつも自分との闘いだった。

(2) 筆記試験本番

まあまあ書けた気がする。それだけでも今までとは全然違う。

あまり期待せず、されど準備は怠らず、とにかく結果発表を待つことにする。

4. 筆記試験の合否

○10月25日（木） 日本技術士会のHPにて確認

「はい、残念な結果を確認しました…」

番号は無かった。何度も確認したが無かった。途方もない無念な気持ちと悔しさ。俺はパソコンの前で固まっていた。

この時点で今年の試験が終わってしまった(ToT)

○数日後 自宅に合否通知が届く

必須：B 選択：A 不合格

あれれ？建設一般のほうが「B」だったのか。手応えと違う。やはり俺は賢くない (-_-;)

5. H24のおわりに

毎日「技術士」のことについて考え、思い、合格した自分をイメージして、常に気合いを入れてきた。

試験を通じて多くのことを学び、成長さえ感じていたが…それは自己満足であった。自身の最大の努力を注いだが、合格者達の努力にはかなわなかったのだ。

「お前は真の技術者に相応しくない！」とされている気がした。

…と、まあそんなことばかりも言っていられないので、気持ちを切り替えることにした。

「諦めたらそこで終わりだ！来年は絶対にリベンジを果たすのだ！」

周りの方々には、まだまだ迷惑をかけそうだ…本当に申し訳ない(-_-)

Ⅲ. H25 受験記（念願の合格を勝ち取る の巻）

1. 再び合格を誓う

○元旦 自宅の部屋にて

再び合格を誓っていた。今までの努力がある。去年のリベンジもある。とにかく形振り構わず全力で、今まで以上のことをして挑むことを自分に誓った。

そして、周りにも「今年こそは絶対に技術士になる！」と宣言して自らを追い込み、特に妻には「今年は俺を励まし助けてくれ！」と、まるでプロポーズの再来のように口説いた(*^^)v

そして1月早々、去年と同様に APEC-semi 受講を申し込む。

「APEC さん、大変お世話になります。今年も宜しくお願い致します。」

そして同時に準備も始める。

形振り構うな！ 俺には「真の技術者になる」という目標がある！！

目標は達成してこそその目標。決して夢ではない！

2. 出願

「試験は願書作成から始まっている！」

試験制度改定を受け、まさしく今年から色濃くなった。今までの技術的体験論文に代わり「業務内容の詳細（小論文）」を出願時に提出するからだ。

口頭試験まで進めば、この小論文の出来が合否を決めると言っても過言ではない。ここから全開で APEC さんより指導を賜る。

3. 筆記試験

(1) 孤独との戦い

やはり、「周りに指導者がいない」ということは辛い。今まで通り独学を強いられる。

ただ、今年はプレが無かった。「あれこれと言いつつやるな！」といつも心でつぶやいていた。とにかく「技術士になりたい！」という一心だった。

(2) 試験対策

出願書類と並行して対策を開始した。試験制度改定に沿った対策だ。

今年から択一となった必須科目は、配点計画を早々に済ませ、**過去問題を徹底的に調べ、My テキストを作成しながら頭に叩き込んでいった。**

選択科目は、テーマを 10 個以上選定し、骨子表と論文の作成を開始した。**今回は骨子表から論文を書くことに徹することにした**（特に課題解決問題）。

とにかく毎日やる。時間は何分・何時間であろうが、とにかく可能な時間は全て勉強に充てる。

一方、APEC さんより「問題文は自分で考えてみよ」との指令を受け、何度も練り直していた。「たかが問題文、されど問題文」である。7 月になっても未だ OK が出ないテーマが山積みだった。やはり俺は賢くない(-_-)

しかし、論文の方では APEC さんから「次に行こう！」と一発 OK となるテーマが出てきた。やはり、去年からの努力が効いているのだ。

(3) 試験本番

〇8月4日(日) 札幌コンベンションセンター

いよいよ大一番。妻に送ってもらい早めに試験会場へ。

腕は一昨日までの手書き訓練でくたびれ、指には「お前はボクサーかっ」というぐらいのテーピング(^^)

でも、そんな疲れはなんのその。とにかく朝から気合いが入った。

午前は必須択一。まあまあ解けた。おそらく大丈夫だ。

一方、午後は焦っていた。「今年ほど出題テーマ予想を外す年はないな…」という感じ。来る問題来る問題の全てが外れた(-_-)

それでも諦めずに脳みそフルスロットル。とにかく汗をかいた。アッと言う間に時間が過ぎた。

終わってみると H24 よりも手応えが無く、試験終了後の第一声は「くっ~やはりチャンスは去年だったかなあ…」といった感じ。現に妻からの「どうだった？」との問いに「また来年頑張るよ…」と答えたくらいだ。

ただ、可能性が無いわけではない。その夜から翌日にかけて全ての答案の再現に励んだ。

〇8月12日(月) 日本技術士会の HP にて必須択一の正答発表

採点してみると 11/15。必須択一の問題 I は A 評価確定。まあ、これは予想通り。

あとは問題 II と III の論文だな…特に問題 II が不安(-_-)

ただ、問題 III の課題解決問題は、まあまあ書けた。選択は問題 II と III を合せた総合評価だから、問題 III の出来によっては問題 II をカバーできるかもしれない。

やはり、可能性が無いわけではないとここでも思う。とにかく、10月31日を心静かに

待つことにした。

(4) 合格発表

○10月31日(木) 日本技術士会のHPにて確認

自宅で不合格を確認した場合、妻は悲しい顔をするだろうし、そのショックで俺が「会社に行きたくない！」なんて気が起きると困るので、早めに出社して一人静かに会社で確認することに決めていた。

そう、「どうってことないさ」という顔をする準備はできていた。

とは言え、自宅から会社までドキドキが止まらなかった。今年は去年に比べ自信がないけど、期待するなというには無理がある。

会社に着いて「期待するなってえ…ショックなだけだってえ…」と自分に言い聞かせるも身体は言うことを聞かず、手はドンドン動く。パソコンを立ち上げ、恐る恐るマウスをスクロール…すると…

ある！？俺の番号がある！

「おお！ええ？マジか！？」と思わず声が出てしまった。ビックリした反動で、膝でデスクを蹴り上げてしまったぐらいだ。何度も目をこすり確認する。確かに俺の番号がある。「今年のものか？」と年度も確認した(^_^)

おおおおお！なんという感動だ。すぐさま喫煙所に行き一人ガッツポーズ。「ヨッシャあ！」と声が出る。こんな感動久しぶりだ(^o^)

そのまま妻に電話すると「やったね！すごいねえ！感動しちゃったよお～」と泣いていた。多くの声援をもらったし、苦勞もかけたからなあ、無理もない。

そして、APECさんに合格したことを伝える。すぐに口頭試験対策セミナーを開講してくれた。

(5) 合否通知

○11月2日(土) 自宅に届く

何度も見直す。間違いなし。合格だ(^o^)

評価は、問題Ⅰ：A 問題Ⅱ：B 問題Ⅲ：A だった。

一瞬「B」の文字が見えて思わず「ええ」と声が出たが、選択は問題Ⅱと問題Ⅲを合せた総合で「A」だ。いや～総合評価に感謝感謝。やはり予想通り問題Ⅱの評価は低かったのだ。ふう～危ない危ない(^◇^)

口頭試験は12月8日(日)。場所は受験者の聖地とされているフォーラムエイトだ。

とうとう東京に呼ばれた。俺の筆記試験に合格点をくれた試験官の方々に会えるのだ。

4. 口頭試験

(1) 試験対策

筆記合格を受け、意気揚々であったのはつかの間。すぐに口頭試験への不安が心を覆い始めた。

射ても経っても居られず、とにかく APEC-semi 模擬面接に申し込む。同時に SUKIYAKI 塾北海道のセミナーにも申し込む。極度のあがり症である俺は、とにかく場数を踏まなくてはならないのだ。

○11月4日 SUKIYAKI 塾北海道のセミナーにて

午前中は APEC さんの全体講義。ここで APEC さんに初めて直接お会いすることができた。去年から指導をして頂いていたのに「はじめまして。」なのである。そして俺は図々しくも「どこにでも行きますから、更にもう1回模擬面接をしていただけないでしょうか？」とお願いした(^_^)

午後からは SUKIYAKI 塾講師の方々による模擬面接。カンニングペーパーを見ながら挑んだにも係わらず、ダメ出しの連発(^_^)

でも、自分の弱点が露わになった。やはり自分では気づかないことが多い(-_-メ)

○11月15日 APEC さんによる模擬面接 Part.1

APEC さんに東京でミッチリと模擬面接していただけた。

結構な準備をしていったにも関わらず言葉が出ない。スラスラどころか全然出ない。極度の緊張からなのか、出てくるはずのものが出て来ないのである(-_-;)

あるハプニングがあり、通常よりも長く面接していただけた。意地悪 version を交えた模擬面接は続く。実はここがポイントだった気がしている。長い時間していただけたことは当然大きいのだが、それよりも APEC さんと色々と話ができた（と自分は勝手に思っている）ことは更に大きい。これで少しリラックスできたのだ。頭が柔らかくなった。そうだ、「あるきっかけからスーッと合格ラインに達する感じ。」とはこのことだ。RCCM 以来の久しぶりの感覚だった。「あとは仕上げだ！」と思えた。

○12月2日 APEC さんによる模擬面接 Part.2

とにかく安心したい一心で、図々しくも小浜まで押しかけた。APEC さん、本当に申し訳ありませんでした(^_^)

ここに来るまでミッチリと準備してきたので、少々緊張がほぐれていた。

APEC さんからの試問に何とか答えられる。意地悪な質問にも落ちついて対応できた。これは自信に繋がった。

そして APEC さんから「最後に SUKIYAKI 塾北海道のメンバーに仕上げの模擬面接をしてもらったら良いよ。」との提案を受け、帰宅してすぐに SUKIYAKI 塾北海道の講師の方にメールしてみた。すると快諾してくださった。なんという懐の深さ。

○12月5日 SUKIYAKI 塾北海道の講師の方々による模擬面接

沢山の質問とアドバイスをいただけた。感謝の念でいっぱいだった。OHさん、MKさん、本当にありがとうございました(^_^)

直前に沢山の勇気を授かることができたのだ。本当に俺は恵まれている。

さあ、あとは本番あるのみっ！

(2) 試験本番

○12月8日(日) フォーラムエイト

いよいよ大一番。緊張の朝を渋谷のホテルで迎えた。

目覚めてすぐに資料を見ようとしたが…やめた。今さらなのである。今まで多くの模擬面接を受けてきた。想定問答集やプレゼン用に経歴と小論文の骨子表を作り、会社で何度も一人でイメージトレーニングしてきた。準備は万全なのだ。午前中はとにかくリラックス。

昼になる。軽い昼食を腹に押し込み、スーツに身を包みホテルを出る。いざフォーラムエイトへ。

受付を済ませ控室へ。緊張をほぐすためにひたすら腹式呼吸のおまじない。

そして間もなく自分の時間が来た。受験室の前へ。身体の震えが止まらない。どうなることやら…(-_-)

終わってみればアッと言う間の15分弱(詳細は再現記録を参照)。

一抹の不安は残ったものの何とか答えられた。半端ではない緊張の波が押し寄せながらも落ちついて対応できた。**それもこれも模擬面接のおかげだ**と思う。

それに試験官は「合格させてくれようとしている」のだと思った。

なにはともあれ実に良い経験ができた。こんな体験は滅多に味わえない。いつまでも忘れないでいたい。

○当日のホテルにて

試験を終えると大儀を果たした気持ちでいっぱいになった。支援して下さった方々にお礼を言いたくて仕方がなかった。本当のお礼は合格してからかもしれないけれど、とにかく感謝の気持ちでいっぱいだった。

この日は、受験後すぐに再現記録をまとめたいこともあり宿泊としていた。時間を忘れて20:00頃までPCに向っていたと思う。その後は試験対策から開放されたせいかグテングテンに酔い潰れ、久しぶりにぐっすり寝られた(^o^)

○翌日帰宅して

すぐに妻から「どうだった？」と聞かれ、根掘り葉掘り、手ぶりなどのアクションを交えて説明した。

そして「今まで苦労をかけた。イライラして八つ当たりしたこともあったと思う。本当に申し訳なかった。」と謝り、「本当にありがとう。」と御礼を言った。

去年までとは全然違う。何という開放感。そして感謝の気持ち。

妻との酒宴は夜中まで続いた…

(3) 合否発表まで

試験対策で山積みとなっていた仕事に没頭する。

とにかく試験のことは忘れて…なんて表向きは言っているが、忘れるなんて有り得ない。口頭試験での問答を思い出し「あれはマズかったかな…これは大丈夫だったのだろうか…」などと毎日考えていた(^_^)

5. 試験の合否

(1) 合格発表

〇3月3日(月) 日本技術士会のHPにて確認

ある事情により、自宅でも会社でもないところで結果を確認することとなった。

なんだかよく眠れずに朝を迎えた。妹に借りたパソコンで確認する。この心臓のドキドキ、コーヒーカップを持つ手の震え、何とも言えない緊張だ。恐る恐るマウスをスクロール…すると…

あった！あった！俺の番号があった！

「おりゃ〜〜〜やった〜〜〜！」と思わず声が出てガッツポーズ。

そして筆記の時のように一応「今年のものか？」と年度も確認した(^_^)

なんという感動だ。そのまま妻に電話すると「ほんと！？やったねえ！長かったねえ…」と、またしても泣いて喜んでくれていた。

夕方、帰宅して今度は官報で名前があるかを確認した。

名前があるう〜！ 間違いなくあるう〜！

もうダメだ。嬉しさが止まらない。すかさず APEC さんや SUKIYAKI 塾北海道でお世話になった方々へお礼のメールをした。

間もなく、社長からも祝福のメールが来た。大変喜んでくれていた。

そうこうしているうちに妻が帰って来た。寿司を頼んでくれたらしく、二人と4匹の犬たちとで祝盃をあげた。

「いや〜今日のビールは実にうまい！」なんて言っていると…みるみる酔っぱらってくる。目が回り出す(^_^)

今日はできるだけ起きていたかったのだが。結果を受け気が緩んだみたい。1時間もすると凄まじい眠気…轟沈(-_-)

(2) 合格証と登録証

○3月5日(水) 合格証が自宅に届く

仕事を終え、自宅に帰ると届いていた。

合否通知を確認する。間違いない、「合格」とある。一人ニヤニヤしていた(*^^)v

○3月6日(木) 登録に必要な資料を収集する

ハッキリ言って面倒だ…なんて強がりを使うが、合格を一人で噛みしめられるというか、実はこの時間がけっこう好きである(^o^)

○3月7日(金) 登録申請書類一式を郵送

登録にはMAX2~3週間程度かかるとのこと。まあ、気長に待つとしよう。

○3月15日(土) 登録証が自宅に届く

以外に早かった。

今日は俺が技術士になった日。そう、夢にまでみた技術士だ。

これでやっと**真の技術者としてのスタートラインに立てたのだ**。

IV. おわりに

1. 感謝の辞

APECさんには多大なるご指導を賜り、技術面と精神面の両方で助けて頂きました。感謝の気持ちがやみません。本当にありがとうございました。

また、SUKIYAKI塾北海道の講師の方々にも大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

そして、当サイトは受験を志した時から毎日のように拝見しておりました。勉強中は何度もくじけそうになりましたが、そんなときには当サイトを拝見することで勇気をいただき、継続することができました。

ですから私も後に続く受験者の方々のために少しでもお役に立てればと思い、体験記を寄稿させていただいたと思います。

2. おわりのおわりに

私が考える「合格するために必要な条件」を記して結びます。今後受験される皆様のご健闘をお祈り申し上げるとともに…

①周囲の理解を得ること

まず、何と言っても周りの人たちの理解が必要だと思うのです。特に家族や会社だと思うのですが、協力を得られないとなかなか全力を出すことができない（のは私だけ？）。

②目標を立て持ち続けること

何でもいいと思います。ただし「自分らしい」かつ「最後まで揺るぎない」ものである必要があります。

ちなみに私の目標ですが、ここでは清いことを書いてはいますが、実は結構ダーク的な欲望があったり、「悔しい」という強い思いもあったりでした。「やはり、人間はやましい欲望や悔しさのほう自身が支え続けるのだ」とも思っています。

③よき指導者にめぐり会うこと

「独学で十分だ！」という方には余計なお世話でしょうが、私はあまり優秀ではないので何と言ってもここが重要でした。APEC さんにめぐり会わなければ未だに合格できていない気がしております。

④毎日勉強すること

毎日数時間というのが理想でしょうが、会社務めの傍らでは、なかなかそうはいかないもの。

ですから何分であろうが、とにかく毎日勉強することです。というより毎日関わるクセを付けると言った方が良いでしょう（一度足を止めるとなかなか次の一歩が出ない）。

ただ、そういう私ですが、正直日曜は…(^_^)

⑤とにかく諦めない！継続は力なり、ただし効率的に

「技術士になりたい！」と決めたなら決して諦めないこと。

まずは受験し続けることです。受験しなければ合格など絶対にあり得ません。

ただし、受け続けるだけであれば金と時間をもったいないというもの。どうせやるなら本気に尽きます（と段々なっていくはず）。

そして、どうせやるなら効率的に。時間は作業に費やすのではなく勉強に。

- ・己の弱点を抽出することは分析であり、各々の弱点がボトルネックである。
- ・己の弱点を補い、長所を伸ばすことは解決の方向性である。
- ・己にベストな弱点補強法や長所延伸法は具体的な解決策である。
- ・まさに己の合格術を見出すことこそが課題解決能力である。

なんちゃって(^_^)